

## まちづくり出前市長室（板東地区）開催記録

1. 日 時：平成23年7月16日（土） 午前10時から正午まで

2. 場 所：板東公民館

3. 出席者：市民 約20人

市関係者 市長、副市長、教育長、政策監、市民環境部長、市民環境部副部長

---

1. 前野会長（板東地区自治振興会会長）あいさつ

2. 市長あいさつ

3. 鳴門市自治基本条例について

～市民環境部副部長から資料に基づき説明～

**市民** 自治基本条例は徳島県で初めて出来たということで、それを誇ってもいいと思うが、策定に時間がかかりすぎていないか。市民が参画していこうとするのは素晴らしいが、それを続けていくことが大切だ。以前、公募委員として事業仕分けに参加したが、行政は市民の目線に立つということが大切だと感じた。しかし、市は、まだまだ出来ていない。職員を、夕張に派遣するくらいが良い、それくらいの厳しさがないと本当の市民の目線にはならない。東日本大震災で、同じ働きでも、手弁当でボランティアに行っている人もいれば、一方では出張旅費で行く役所の職員もいる。市民は非常に厳しい目で見ている。自治基本条例を作って、いい方向に来ていることは確かではあるが、まだまだ魂が入っていないという印象がある。

**市長** 条例は形として出来上がったが、それを作ることが目的ではなく、それを運用し、新たなまちづくりにどう生かしていくかということだと思う。この条例は、市民の皆さんとの手作りなので、かなりの時間をかけ、ご意見をいただき、説明もしながら作った。最終的に4年くらいかかった。この条例は市のものではなく、市民のものだと考えているので、周知や情報交換を通して、次の世代の方に受け継がれるように努力していくので、よろしくお願ひしたい。

本市も、関西広域連合の枠組みのなかで、宮城県を支援していることから、これまでに、第8陣まで職員を派遣している。今は、1派遣あたり10日間程度だが、被災地の状況もだんだん変わってきており、今後は、1ヶ月、1年、3年といった長期の派遣も被災地からは期待されている。しかし、市職員の数が少なく、厳しいので新しい方法を考えなければいけない。例えば、退職したOBにお願いするのも方法かと思う。いずれにしても、市民全体で被災地を支援していくということが、これからの課題になると思うのでよろしくお願ひしたい。

**市民** 条例では、議会と行政をまとめて市としているが、議会は市民と行政の間に立つもので、ひとくくりに出来ないのではないか。

**市民環境副部長** 行政が提案した予算を議会が議決するという形になっていることから、議会と行政は切り離して考えるのではなく、お互いを市の一部として見ている。

**市民** アメリカの市議会は夜に行っている。議員もそれぞれに仕事を持っており、夜にすることになるが、市民に開かれた議会と言える。市もそういった改革が出来るのではないか。実態が伴った変化が必要だ。長い時間をかけて、ただ作文しただけのような条例に思える。職員の数も

もっと減らせるのではないかと。民間は厳しく、泣いている。市は、まだ生ぬるいのではないかと。行政の中での厳しさが欠けているという気がする。

**市長** 昨年、スーパー改革プランを策定した。プランでは、市の人口が約6万2000人なので、市民100人に対して1人の職員で対応することを目指して、現在約720人いる市職員の数を、5年かけて100人減らそうということを掲げている。5年のうちに、市民と行政の協働が進めば、もう少し職員数を減らすことも出来ると思う。これは、皆さんとの協働とその進捗状況によると思う。

作文をただけではないかという厳しい意見をいただいたが、条例には、行政の責務など、既にわかりきっていることを書いているだけではないかという印象だったと思う。

わかりきったことを明確にして、文章にして、市民との約束という形にしたものが自治基本条例である。市職員の仕事の仕方も、変えていかなければいけないと思うので、ご理解いただきたい。

**市民** 今月末に環境ワークショップが開かれる。これはクリーンセンターで開かれるが、市民目線から見ると市の中心部での開催が望ましく、なぜクリーンセンターなのかと思う。このあたりからも市職員の意識を変えていかなければならないところであると感じる。

**市長** その点についてはまた検討したい。

**市民** 川崎幼稚園・小学校統廃合の問題で検討委員会を立ち上げ、記念誌を作ることになっている。しかし予算が30万円ほどしかない。これだけの予算では何も出来ない。補正予算で検討してもらえるようお願いしたい。

**教育長** 川崎小学校・幼稚園と板東小学校・幼稚園の再編については、現在、両校（園）の関係者からなる統合準備協議会を設置し、平成24年4月の円滑な統合に向けた取り組みが進められているところである。両校（園）の再編の際には、板東小学校及び幼稚園の校地及び施設設備を活用することとしている。このことにより、川崎小学校及び幼稚園については、今年度末をもって、学校（園）を閉じることから、現在、川崎小学校及び幼稚園、さらに地域の方々による「川崎幼・小学校統廃合の諸課題検討委員会」が設置され、記念式典等についても検討をいただいている。

記念式典等に伴う経費について、少ないのではないかとということだが、一昨年に休校となった、島田小学校の例を参考にしたいと考えている。具体的には、島田小学校休校式の場合は、記念誌代と記念DVD代のみを特別に予算化した。その他の経費については、通常の学校管理費で賄っていただいた。そのため、川崎小学校・幼稚園についても同様に考え、本年度当初予算において、記念誌作成に係わる経費を予算化したところだが、今後、「川崎幼・小学校統廃合の諸課題検討委員会」の方々とは十分話し合いを進めていきたいと考えている。

**市民** 今度、第4回の検討委員会を開く。ぜひ教育長に来ていただきたい。

**教育長** はい。

#### 4. テーマに基づく意見交換「地区自治振興会とまちづくり」

**会長** 次に、地区自治振興会と市がどのように協働していけば良いのかについて、意見交換をしていきたい。

板東地区は2718世帯あり、男子3117名、女子3428名の6545名の地区で、18の自治会がある。これが連合となって板東地区自治振興会を形成している。自治振興会の運営は、18の自治会長と5つの専門部会が行っている。安全部会、文化部会、体育部会、環境部会といった会であり、会については、総会と役員会などがあるが、毎月、会長会を開いて、各地区自治会で問題になっていることをテーマに話し合っている。

今年度は、去る3月11日に東日本大震災が発生したことを受けて、板東地区でも自主防災会を立ち上げたいと考えている。今後も、それぞれの地区の良いところを生かして地域の活性化に努めていけたら良いと思っている。

事業としては、文化部が実施し、十数年続いているピースコンサートがある。昨年から「第九フェスティバル in 板東」と名称を変えて行っている。板東町内の小中学生、地元の合唱グループが発表の場としてドイツ館を活用して盛大に行っている。今年度については、堀江地区の文化部と協賛した形で8月に行われる予定であり、地域の町おこしのために今後もこれを続けていきたい。ドイツ館のほかにも賀川豊彦記念館、霊山寺などもあるので観光地としても盛り上げたい。

また、体育部会では堀江地区と合同で、広く大麻地区として、グランドゴルフをしようという話が持ち上がっており、体育振興にも努めていこうとしている。みんなで知恵を出して、市からの地域づくり事業活性化補助金を有効に活用していきたいと思っている。市長には、まちづくりに対する考え方を聞かせていただきたい。

**市長** まず、板東地区の皆さんには、「青色防犯パトロール隊」を結成していただいたことに感謝を申し上げたい。これに続き、先月、瀬戸地区でも「青色防犯パトロール隊」が結成された。これらはとてもありがたいことである。また環境部においては、うだつ峠の清掃にご尽力いただいた。うだつ峠の活動が、鳴門市の清掃活動におけるシンボルのようになってきていると思っている。清掃をしなくても良いような鳴門市になるのが理想だが、十数年以上前から不法投棄されている現状があり、ある程度は、片付けていかなければならないことや、市民のなかに、これ以上の不法投棄は許さないという意識も生まれるきっかけになったのではないかと思う。

文化面についても、市の東部では、自然遺産が豊富だが、西部では人文・歴史が観光資源になっているので、板東・堀江地区の皆さんが中心になって育てていただきたいと思っている。市としてもそれに協力して、次の世代へとつないでいきたいと思っている。非常に活発な活動をしていただいているという印象がある。

自治振興会の歴史についてお話したい。もともとは平成5年の東四国国体の時に、国体を成功させようという、ひとつの市民運動として出てきたものである。例えば花を植えるといったことである。それがもとになって、平成6年から7年にかけて地域で自治振興会が立ちあがった。最初に出来たのが木津の木津神地区自治振興会だと聞いている。大麻町については当時、大麻地区自治振興会という一つの団体だったが、世帯数も5000を越えていてあまりにも大きいので、平成12年に堀江地区と板東地区に分かれたということである。社会福祉協議会を母体

とするなどしながら、現在の14地区になった。色々な自治振興会を回っていると、運営の仕方、組織の在り方など、地区によってそれぞれ差があるのが現状だ。板東のようにかなり進んでいるところがあったり、まだまだ議論の最中だというところがあったりして、全ての自治振興会が同じレベルで運営されているわけではない。ここにまちづくりの難しさがある。

まちづくりは地域によって求められるものや課題も違うので、それぞれの地域に合ったやり方でまちづくりを進めていただきたいというのが私の考え方である。そのなかで自治基本条例も生まれたものであり、条例が施行される前に前倒しで、「地域づくり事業活性化補助金」も活用していただくことになった。要綱に基づき、皆さんの中で議論していただいて、より有効に活用していただくものである。去年は1年目だった。2年目の今年は、去年のことを反省していただいてステップアップしながら活用していただきたい。まだまだ完成した制度ではないので、市としても、実践のなかから、自治振興会への支援制度のことも考えていきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

もう一つは、自主防災会のことだが、全市的にはまだまだ広まっているわけではない。今回の3.11の東日本大震災を受けて関心が高まっている。沿岸部の里浦町・鳴門町など津波の危険がある地域では、先行して自主防災会が立ち上がっている。板東についてもぜひ立ち上げていただきたいというのが行政としての願ひである。

今、沿岸部においては、国・県のほうで新しく地震のシミュレーションを作り直しており、今年度中に出来上がるのだが、かなり厳しい状況の想定が出てくると思う。

先般、堀江地区でも自主防災会を立ち上げたいとおっしゃっていただいた。同じ鳴門市なので、沿岸部のほうで津波が来たときは、堀江のほうに避難して来ていただいても良いと話があった。ぜひ、自主防災会を結成していただき、出来れば堀江地区より西の板東地区でもそういった役割を担っていただきたい。

板東地区は津波の心配はないはずだが、地すべりが来るかもしれないので、今後のシミュレーションで、どう対応していくかという議論の余地はある。いずれにしても、自分たちの地域は自分たちで作っていくのだという意識で頑張っていただきたいと思う。そのためには鳴門市としても全面的にバックアップさせていただきたい。行政と市民が上下関係というものではなく、市民目線で協働して、鳴門市をより良いものにしていきたいのでよろしくお願ひしたい。それが私の自治振興会の皆さんに対する考え方である。

## 5. 地域の課題について意見交換

**市民** 板東谷川の河原に大きな木が生え、藪になっており、防災上、問題がある。山に近いところだから、雨が降れば水が流れてくる。市にお金がないのはわかるが、被害が出てから使うお金より、予防的に使うお金のほうが安くてすむと思うのでどうにかして欲しい。

また、遍路道沿いの桧に渡る橋の手前の川淵には草がたくさん生えている。景観だけではなく、防犯の面から見ても良くないのでどうにかして欲しい。検討する、という返事だけでなく、いつやるという返事をいただきたい。

**市長** 板東谷川については、県の管理河川である。市も現状はよくわかっている。7月13日に、管理をしている東部県土整備局鳴門庁舎の担当者と話をしてきた。その結果、板東谷川は昨年、高速道路より上流700mの右岸堤防を官民協働作業の草刈り工事を実施し、また下流450mの左岸堤防を業者に発注して草刈り工事を行った。今年度においては、高速道路より下流450mの右岸堤防の草刈り工事を実施すべく業者に発注しているということだった。昨年に引き続き官民協働作業の草刈り工事も予定しているということで、今後、具体的な場所等については町内会の皆さんと協議させていただきたいという答えを県からいただいた。また、川底から生えている草木についても、河川管理上支障になる場合は対応したいと言っていたおり、県の管理とはいえ、できるかぎり市の方からも要望していきたいと考えている。

**市民** 板東谷の山奥に不法投棄がたくさんある。家具や鉄骨などがたくさん捨てられている。あそこを一回見に来てもらわないといけない。

**市民** うだつ峠の不法投棄については新聞にも載っている。国交省も県も入って、クレーン車で大がかりな作業を行った。一般市民も手伝った。それと関連して、前市長のときに申し上げたのは、監視カメラの話と市の循環バスの話だ。バスも監視カメラも予算が無いなどで難しく、地元が行っている不法投棄監視パトロールに期待したいというのが、当時、市からの返事だったが、あそこには見えているものだけではなく不法投棄がいっぱいあり、要するに、谷川を廃棄物処分場みたいにしており、不法投棄の砂防ダムのようになっている。

美馬市でも拝原最終処分場のことが議論になっているが、そのことと同じ問題が今、大麻山の周辺にある。残土処分場ということで、皆さんよくご存知だと思うが、残土とはいえ、中に何が入っているかわからない。私は環境部会として時々、電気伝導度を測っている。下流域のこのあたりでは150マイクロシーベルトだが、上流のほうにいくとだんだんと数値が上がってくる。普通は、轟の滝のところで測ったら、58マイクロシーベルトだった。きれいな水というのはそれくらいだ。普通は上流に行くほど水がきれいになるが、ここでは上流に行くほど汚れている。

汚染の原因はいろいろあると思うが、電気伝導度が上がるということは金属類が含まれているということである。鳴門市の水道水も汚れてきている。この辺りでも定期的に水質データを測っているはずだが、あまり見たことがない。だからそのデータを何年かにわたって情報公開したら良いと思う。

板東に関して言うと、川底に木が生え、藪になっており、危険なのはその通りだ。板東谷川の上流は、とても急な傾斜の谷になっており、そこに不法投棄をして埋めるからもっと危なくなる。その埋めている物の中身も危ない。それが電気伝導度となって表れてくる。これは大変

な量なのでそのままにするのはどうかと思う。

私は板東谷川を公園にしてもらいたい。今は、県も国交省も建設残土ということで許可している。ただ、残土とは言え、それが何層にもなっているからその中に何が入っているのかはわからない。電気伝導度しか調べていないからわからないが、その中に色々入っている可能性はある。焼却灰を埋めたということも聞いたことがある。許可していないものを埋めている可能性は十分ある。許可している国交省や県に問題があると思う。国・県・市それぞれが同じ市民目線になるべきだ。市は県に、県は国にそれぞれ遠慮があるように見受けられる。原発の問題にしても、安全と言いながら結局は住民が泣いている。

板東谷川は公園にするべきだ。去年、会長が呼びかけたら、たくさんの人が草刈り機を持って来ていた。やる気は十分ある。これは協働のいい例だと思う。あまりお金をかけないで板東谷川を大公園にできると思う。

また、ワカメの不法投棄が問題になったが、わかめもリサイクルができるのではないか。小水力発電や鳴門海峡の潮流を利用した発電も市が手を挙げてやってみたらどうか。自然エネルギーをお願いしたい。素人のアイデアだが、潮流発電を鳴門市はやれば良いと思う。

**市民** 萩原の大麻団地に住んでいるが、横を流れる樋殿谷川の川底の木のことを、初めは鳴門市にお願いした。河川は、県の管理だと言う情報を得るなどして、何度も陳情し、県にも現場に来てもらうなどして改善していった。大麻団地に面しているところは伐採してくれたが、その周辺はまだのようなので、住民は、困ったら、まず地元の市の相談窓口相談するのが良いと思う。それを受けて市は、親身になって、県に橋渡しをするようにして欲しい。

大麻団地については、幹線道路に出る唯一の橋が遮断されたら孤立してしまうので、樋殿谷川の雑木をどうにかして欲しいと以前から思っていた。草が生えるのは仕方がないが、木は5年も経つと大木になるので、とても心配だ。まず、地元、鳴門市に相談するべきだと思う。

**市長** 出来る限りの働きかけはさせていただきたい。

**会長** 板東自治振興会としても一丸となって、板東谷川のことについて、県に対して陳情にいきたい。市もそれを後押しするような要望をするなど、車の両輪のように動いて欲しい。

**市民** それは本当に必要なことだ。藍住大橋の東側の津慈から川崎にかけての道もガードレールを設置して欲しい。以前、国交省に要望に行くと国交省は市の出方を待っているのだと言っていた。狭くて対向も難しく、危険なのでガードレールが欲しい。夜になったら危ない。あれだけの通行量があるのに、狭いのは危険だ。土木課にも来てもらって、話をしようと思う。

**市長** 確認してみます。

**市民** うだつ峠に関連することだが、ドイツ館のところに道の駅を作ってくれた。それを活用するためには、うだつ峠に市バスを通せば良い。北灘を通過して、鳴門スカイラインに循環バスを通せば良い。そして、市の職員は率先して市バスに乗れば良い。自治振興会にも呼びかけて、バスを活用するようにすれば、市バスも再生し、市民の目が光って不法投棄もなくなると思う。板東から図書館に行くにしても300円のバス代を支払わないといけない。サービスのわりに高い。みんなで使えるバスにしたいものだ。

また、徳島県は公共交通の評判が非常に悪い。京阪神のほうから鳴門にどんどん人が入ってきているから、そのお客さんを轟の滝や祖谷に行かせるようなバス路線を作っても良いと思う。

人が鳴門から循環するような交通体系を市から提案しても良いのではないか。そのことで、県下全域での不法投棄の監視にもなる。不法投棄はうだつ峠が多いが、日本全国を探せばいっぱいある。人が居なくなっている限界集落は、不法投棄に適した山になってくる。それが結局は海を汚し、鳴門の海産物まで汚れてくる。山を大切にしないと海もきれいにならない。市長にはすごく期待している。

**市民** 板東の山の不法投棄は減ったのか。

**市民** もうほとんど捨てられてはいないが、過去に捨てられたものが埋もれている。今、それを掘り返したら余計に汚れるので、山の下の方に浄化装置を付けてみるのはどうか。それも方法と思う。

**市民** 先般の東日本大震災を受けて、インターネットで調べていたら、緊急地震速報（Jアラート）というのは国民全員が情報を受け取る権利があるのだと解釈した。そのためには、行政はあらゆる手段を使った緊急の連絡網、体制を作らなければならないと思うのだが、市の危機管理室に聞くと鳴門市にはそのための防災無線がないということだった。消防のほうに聞いても（防災無線は）知らないということだった。

冒頭で自治基本条例の話があったが、今は、そのことよりも目の前の状況を打開できるようにしなければいけない。国がそのための策を作っていると思うのだが、調べてみると、徳島県では海陽町と美波町、そして北島と松茂には防災無線があるのに、鳴門市にはない。なぜ鳴門市にはないのか、市に聞いたが返答をもらえていない。今後どのようにして整備していくのかお聞きしたい。

テレビ、ラジオ、携帯電話など色々あるのでそれを利用し、情報発信したら1人でも多くの命が助かると思う。これに関連して、避難場所については、従来のハザードマップでは追いつかないので、一度検討し直さなければならない。近くの避難場所を見てみたが、マグニチュード7クラスの地震が来たら、たぶん避難してもダメだなと感じるところがほとんどだった。そのあたりの対応もどうするかお聞きしたい。

**市長** 鳴門市には確かに防災無線がない。今は消防の同報無線を使っている。火災が起きると、各地域に消防から「火災が発生した」とスピーカーから流れるようになっている。ただ、それかなり老朽化しているということと、風向きによっては聞こえないところと聞こえるところがある。また、夏には聞こえて冬には聞こえないということもある。それは今回の3.11の地震以降もそうだが、自主防災会や自治振興会から必ず言われることである。では、それをどうするのかについては、今ある同報無線をもう少し立派にするということが挙げられるが、平成28年5月末までには無線をアナログからデジタルに変えるということが国で決まっている。平成23年に器具を全て替えてしまうと、平成28年にはまた替えてしまわないといけないので、どのようにするのが一番効果的かということを考えている最中である。もしも、これが出来ないのであれば、たとえば半径1.5kmくらいに聞こえるようなサイレンを持ってして、それが鳴った時には地震や津波が起こったのだと知らせる警報という形にしても良いのではないかとこの考え方がひとつあるが結論は出ていない。もうひとつは、Jアラートと小学校など子どもがいる施設をつないで、そこから発信するという方法もある。この点については、今しばらく考えさせていただきたい。

また、皆さんも経験したと思うが3. 11の時に携帯電話が繋がらなかったと思う。7月の始めに和歌山県でも地震が起こった。その時も繋がらなかった。その時メールは使えたので、メールを有効に活用させていただくのも一つの方法だと考えている。今、鳴門市では職員に「まちこみメール」というのを登録させて、災害対策本部を設置するといった情報を全てそのメールで流そうと試しているところだ。それを市民に広げていくのか、市民全体でなくても自治振興会の会長さんにその情報を流していくといったことは今考えている最中なので、今しばらくお待ちいただけたらと思っている。

避難所については、先ほども申し上げたが、災害のシミュレーションを国と県で再検討しているところだ。今まで震度6だったところが震度7になったり、津波が10mくらいになったりするかもしれない。例えばある避難所は、4mの津波のときには大丈夫でも6mの津波になるとダメなので避難所からは外さないといけない。だからハザードマップを全部作りかえる。ただ地域によっては、沿岸部であれば避難する場所さえないところがある。その場合、どうするのかというと、一番シンボリックなものでは妙見山に逃げていただくとか、昔からある里道の草を刈って整地をしておくといったことで対応するのが良いと思う。そういった活動を里浦町や川東では現実に行っている。先般、私も実際にその活動に参加してきて、逃げる時にはどのくらい時間がかかるのか、距離はどれくらいあるのか、手すりがないので付けないといけないといった話をしてきた。鳴門市が指定できる地域はきちんとするが、やはり自分たちの地域は自分たちが一番よくわかっているので、逃げる場所も里浦や川東の人の方が市以上に良く知っている。だから板東の方も、逃げる場所は地域でご検討していただいたり、皆さんと一緒に歩いて練習していただいたりして、市はその情報をハザードマップに載せることも出来る。それも、「市民との協働」ということになってくると思う。

職員が防災無線を知らないと言ったことについては誠に申し訳ない。これからはきちんとした説明が出来るように私のほうから消防長に言うておく。

現状では、防災無線がないということ、整備するには時間とお金がかかるということで、代替方法を考えないといけない。また、デジタル化についても対応していかなければならない。

もうひとつ、今年の8月ごろには新しい消防庁舎が完成する。そこは耐震化もできているので、もし何かあったときには市役所の防災本部をその中に移すので、そこから情報を発信させていただくということになる。出来る限りのことからやっていくので、ご理解のほどよろしく願いたい。

**市民** 鳥居龍蔵記念館が文化の森に移ったが、空いた建物を偉人館として利用するのはどうか。鳥居龍蔵、賀川豊彦など探せばいくらでもいる。そして入場料で稼ぐのではなく、無料にして教育の一環として若い人にどんどん利用してもらいたい。

**市長** 先ほどバスの話が出たので話をしておきたい。ご存知の通り、鳴門市には市営バスが走っているが平成24年度末をもって公営企業から撤退することが決定している。ではどうなるのかという話だが、市としての基本的な話は、今の路線については、形は変わるが皆さんの足は守るというスタンスでいくつもりだ。

もうひとつは、今、国や県の公共交通が危ないということをおっしゃっていただいた。それは事実である。聞くところによると、徳島バスでも路線の維持が非常に厳しくなってきたとい

うことを聞いており、南のほうから再編や運賃の値上げなどが考えられ、それがだんだんと北部のほうにもくると思う。長原あたりの問題も既に出てきている。これに対して県のほうもなかなか動きが鈍く、市としても心配している。このまま県も国も動かないという状況では困るので、市としては、今まで持っている公営企業のノウハウもあるし、市だけではやっていけないので、藍住や北島、板野などとも協力して方策を練っていけないのかということを考えている最中だ。ただし、市だけの話ではなく広域の話になり、また財政の問題もあるので、出来るか出来ないかということは除外しておいて、何らかの話をするということで、藍住町や北島町の町長と話をする機会を作っていこうと思っている。出来るところからさせていただきたいと思っている。

ただし、公共交通の話をする、高齢者の方には何が必要かということになり、やはり足が必要だということになる。また、介護保険の関係で輸送手段も必要だということになる。そのあたりも踏まえて、今後考えていかなければならないということになると思う。特に、大麻の人は、西の端でお金が高いという話が出たが、大麻の皆さんが買い物に来るときに、鳴門の撫養の方にはなかなか来ずに藍住の方に行っている。すると、大麻町の市民は、鳴門に行く路線ではなく、藍住に行く路線が欲しいのではないかという話をしているところだ。このあたりが、広域で色々と考えていかなければならないところだと思う。24年度を持って市バスは公営企業からは撤退するが、皆さんの足は必ず守っていきたいと思っているのでよろしく願いしたい。

**会長** 今、市長からの回答があったように市バスは公営企業からは撤退するが、その代わりに広域で何かを考えてみようという市長の気持ちを聞くことができたのが一番良かった。時間になったのでまちづくり出前市長室を終わりたいと思う。今後も板東地区自治振興会を発展させていきたいと思うので皆さんのご協力をよろしく願いしたい。

**市長** 皆さんから色々な話を聞いて、すぐ出来ることもあるし、そうでないものもあると思うが、今日いただいた意見は十分に検討、確認させていただいて、出来ることからさせていただきたいと思っている。今後とも、鳴門市のために皆様と一緒に行動していきたいと思うのでよろしく願いしたい。